

## 澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの冒頭発言

日時：平成26年4月21日（月）15時00分～

場所：内閣府本府1階 記者会見室

日米協議の結果とその他若干のコメントをさせていただきます。

16～18日に甘利大臣が訪米された。16日は夕食会ということだったが、17日と18日の午前中にフロマン通商代表と甘利大臣の協議を行った。一対一の場合もかなりあったようだ。いわゆる重要5品目と自動車について協議をしたということだが、扱ったテーマについては濃淡がある。時間配分という意味での濃淡はもちろんあるが、結果として特に何かが決まったということもなく、相変わらず相当の距離感があるということで終わっている。USTRのリードアウトをご覧いただくとその状況がもっとよくわかると思うが、少なくとも、日本の報道とは全く違うというのが実態だと思う。

日米の協議は普通の二国間協議と違っている。普通の二国間協議は、先方がこれでどうだ、ここまで降りてきて欲しいと言って、日本がいよいよいやと言っていてその間で折り合うのが普通の二国間交渉だが、日米の交渉は最初から今日に至るまでそのような通常の交渉とは全く違う。要は、米国が初めから相当厳しい主張、原則撤廃であるという主張を未だに崩していないという中で、日本は決議があり、日本の難しい事情があり、農業に壊滅的な被害を与えるわけにはいかないと繰り返し申し上げている。その中で、日米がどのような形で折り合えるのかという、本来は事務レベルが行う作業も含めて大臣レベルでやっているのが実態。従って、お互いに公式に言っているのは、お互いの公式見解であって、それ以上にお互いが何かカードを切っているということではないというのが実態である。報道を見るとお互いに妥協案を提示したというのがあるが、それを誤報であると繰り返し申し上げているのは、本当のことを言われて、それをむきになって否定しているのではなく、全く事実と反するからである。今日もある社が昼に豚肉では大幅引き下げで日米合意と報道していたが全くの嘘。基本的に米国は関税率や制度の撤廃を求めているのであり、日本は撤廃はとてできないと主張している。お互いに主張しているだけでは、交渉にならないので、通常であれば、大臣協議の前に、どういった道筋があるのかというのを事務方が頭の体操をする。頭の体操といのは、仮にこういった落としどころがあるとしたら、そのためにはお互いに条件を付けなければならず、税率の引き下げなど、昨今新聞を賑わしているような単純な話ではない。大臣がおっしゃっているように、複雑な連立方程式を解くような、非常に複雑なパッケージで合意案を考えなければならないという流れの中で、一つとしてそれができていないというのが実態。牛肉でも豚肉でも米でも、日米が合意するのであれば、相当複雑な形、パッケージで合意することになると思う。あまりにも複雑なの

で、何%の引き下げで合意したというレベルでは合意と呼べない。当方も米国も、何がしかの方向性で合意して次に進もうということではなく、パッケージの全体像を作り上げるまではピン止めしないということなので、何も決まっていない。大江大使がガラス細工を積み上げるようにという言い方をしているが、まさにガラス細工を積み上げてはそれが A 社の報道により壊れ、ガラス細工を積み上げては B 社の報道により壊れ、今日はまた C 社の報道により壊れ、ということ。これは冗談ではなく、本当にそういうこと。正直言って、米国の日本に対する不信感はかなりなもの。米国が言ってもいないことについて米国が合意したという報道がなぜ載るのか、日本が提案もしていないことが、なぜ日米で握ったということになるのか、相当の不信感を持たれているというのが実態。ちなみに日本は、米国だけではなく他の国とも交渉をしているが、報道を見た他の国からもこれはどうなっているのかという声が寄せられている。今後、日本が TPP だけではなく、様々な交渉を行っていくに当たっても望ましくない状況だと思う。

皆さんにしてみれば、TPP 政府対策本部がほとんど情報を発信していないので、独自の努力により色々なところから情報を取ってきて、国民に情報を早く開示したいという思いで報道をされているのかもしれないが、今日、お集まりいただいたのは、日米の交渉の実態と日米の交渉が通常の交渉とは全然違うのだということをもう少し理解していただきたいから。お互いに案を提示して、その間くらいで握る、これで合意だという単純な話ではない。牛肉だけでも相当な時間をかけて議論をしているが、まだ何一つ合意をしていない。それが単に報道されているような税率の話ではないということ。そこをよくご理解いただきたい。もっと取材して詳しく書けということは私の立場からは言えない。また、記事を書くなとも言わないが、特に相手国について、相手国がこれで合意したというのは重い内容の情報である。恐らく、日本人の情報源から何かしらの情報を得て書いたのだと思うが、私が見たところでは全て嘘。書きぶりについて、少なくとも米国が合意したとか折り合ったということは、フロマン本人に取材して裏を取っているということならともかく、恐らくそういったことではないと思うので慎重にしてほしい。仮に、甘利大臣とフロマン代表の日米の協議を実況中継しても、相当複雑で恐らくご理解いただけないのではないかな。本来では課長レベルで行うような複雑な協議を大臣レベルでやっていただいている感じ。記事を書くなと言うつもりは全くないが、慎重な扱いを期待したい。5 品目全てについて距離感がすごくある。米、麦、砂糖についてはもう合意したという報道があるが、米、麦、砂糖についても事務的な協議が続けられている。色々な会談における時間配分には差があるが、協議が続いており、何一つ決まっていない。特定の品目についてピン止めができていない中で大変厳しい交渉が続いている。では、まとまるのか、どうやったらまとまるのかと色々ご心配をいただいているが、10 月頃から延々と議論しており、途中いいなと思

った時期もあったが、また先方が厳しくなったの繰り返し。なかなかいつまとまるのかといった見通しが厳しい中で、甘利大臣は、東京での協議と合わせて延べ 20 時間以上協議していると思うが、甘利大臣も 30 数年の国会議員生活の中でこんなことは初めてだとおっしゃっている。まとまる時にはまとまることを信じて協議を続けている。24 日にオバマ大統領と安倍総理がどういったメッセージを出すかはこれから詰めを行うということになる。カトラーはもうすぐ日本に来るが、今日は夕食を大江大使と共にする程度で、そこで明日の協議をどうするかということが決まる。大江大使関係の取材機会は今日は設けることはしないが、明日、何らかの形で準備する。それは今夜にも連絡することになる。皆さんにお願いしたいのは、通常とは違う複雑な交渉を行っているということ。情報が洩れて、特ダネとして抜かれたのであればこちらも諦めがつくが、そういうことはこれまで一度もないので、もうちょっと語尾を考慮してほしい。合意したという語尾は全て誤報となる。日米が合意した、米国が容認したという報道は全てアウト。記事を書くなとは言わないが、書きぶりの問題。心配している関係者の方に心配をかけないような記事をお願いしたい。

(以上)